

嘔吐物のついた衣類の消毒方法

これから冬にかけて嘔吐をする感染症が増えます。園でお子さまが嘔吐した場合、感染予防のために嘔吐物のついた衣類は洗わずにお返ししています。そこで今回は、衣類の消毒方法をご紹介します。

① 手袋とマスクをつける

② 感染予防のため換気しながら処理する

吐いたものにウイルスが含まれていることがあり、ウイルスが体内に入ると感染することがあるため要注意です。

③ 吐物を取り除く

衣類についた吐物をペーパー等で拭き取り、ポリ袋に密封して捨てましょう。

④ 消毒液を作る



6%の原液の場合、
ペットボトルキャップ
4 杯分=20ml
(家庭用塩素系消毒液)

+

水 1L

⑤ 消毒液にしっかり浸す(目安は 30 分)

衣類を広げ、しっかり消毒液に浸します。



注意!

色落ちします!

色落ちさせたくない場合は、85℃以上の熱湯に 1 分以上つける方法もあります。

⑥ ほかのものと分けて洗濯する

⑦ 手をよく洗う

編集後記

みなさま、こんにちは!

健やかな子保健編5号を担当しました敬愛たかお保育園の看護師です。娘が生まれてから毎日欠かさずおこなってきた保湿。7 才の今でも、お風呂上がり

と朝は大切なスキンケアの時間です。

これからも手で触れることはもちろん、

目でも心でも触れ続け、

あなたが大好き♡を伝えていきたいです。



おしえて♥ナース
「やけどをしたらどうしたらいいの?」

寒くなると暖房器具やなべなどの調理器具を使う機会が多いため、やけどをしてしまうお子さまが増える傾向にあります。やけどは初期の対応と治療が大切です。万が一のためにやけどの対処法を覚えておきましょう。

☆ 患部を冷やす

できるだけ早く流水で 20 分以上冷やします。刺激を避けるために直接水道水・シャワーを当てず、容器に溜めた水で冷やすのも良いでしょう。服を着ている場合はその上から冷やします。

☆ 受診の目安

すぐ冷やして!

- ・全身の広い範囲・顔面などのやけど (すぐに救急車を呼びましょう)
- ・手のひら以上のやけど・水ぶくれの場合 (潰さないようにガーゼで覆い受診しましょう)

※お子さまは大人より皮膚が薄いので、やけどのダメージが皮膚の奥深くまで影響して重症化する可能性があります。

敬愛学園

URL : <http://www.keiaigakuen.com>

敬 愛 保 育 園	Tel042-663-4017
敬 愛 高 倉 保 育 園	Tel042-645-6057
敬 愛 フ レ ン ド 保 育 園	Tel042-678-2921
敬 愛 た か お 保 育 園	Tel042-667-1077
敬 愛 き た の 保 育 園	Tel042-646-1631
多 摩 境 敬 愛 保 育 園	Tel042-775-1470
敬 愛 桃 の 実 保 育 園	Tel042-770-1113
み な み 野 敬 愛 保 育 園	Tel042-637-5265
敬 愛 ハ ー モ ニ ー 保 育 園	Tel042-646-5060
敬 愛 ク レ ヨ ン 保 育 園	Tel042-669-0161
敬 愛 シ ン フ ォ ニ ー 保 育 園	Tel042-669-5501

保育園は身近な子育てのパートナーです。

お気軽にお尋ねください。

健やかな子は敬愛学園 HP でもご覧になれます。

Keiai

けいあいがくえん

健やかな子

保健編 5 号
令和 4 年度
11 月号



知っておこう!
冬のスキンケア

嘔吐物のついた
衣類の消毒方法

おしえて♥ナース
「やけどをしたら
どうしたらいいの?」

Social Welfare Corporation
Keiai Gakuen

知っておこう！

冬のスキンケア

冬は空気が乾燥し、皮膚がカサカサと荒れ、かゆみが出ることがあります。日常にお子さまのスキンケアに気を配り、お風呂上りや登園前などに保湿ケアを心がけていきましょう。



スキンケアの基本は 洗浄と保湿！

Point1 洗い方

- ① よく泡立てる（手で泡が持てるくらい、ひっくり返しても泡が落ちないくらいのあわあわ感）
- ② 手でやさしく洗う（ごしごしこすらない）
- ③ やわらかい清潔なタオルで肌を押さえるようにして水分を吸い取る

Point2 保湿の方法

- ① すぐして保湿
お風呂上がりで皮膚が湿っているうちに保湿剤を塗り、水分の蒸発を防ぎます。（5分以内の保湿が効果的）
- ② 大人の手も温めて
お風呂上がりの温かい肌に、冷たい手で触れるとお子さまがびっくりしていやがるかもしれません。
- ③ 油分の多い保湿剤がおすすめ
湿度が低く皮膚が乾燥しやすい冬は、軟膏やクリームなど油分が多く皮膚のバリアを守る効果が高い保湿剤を使うとよいでしょう。
- ④ 保湿剤も温めて
冬は保湿剤も冷たく感じるもの。お子さまの肌につけてから広げるのではなく、最初に大人の手に少量出して、少し温めてから塗ってあげましょう。
- ⑤ 保湿剤はたっぷりと
保湿剤を塗る量が足りていないと十分な効果が得られません。塗った後、肌がつつる光り、ティッシュが1枚くっつく程度が適量です。

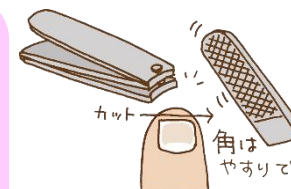


生後2ヶ月から思春期までのお子さまは、体の水分の蒸発を防ぐ皮膚膜が十分に形成されておらず、水分が絶えず逃げてしまっています。また、保湿機能も未熟なために乾燥しやすく、皮膚が乾燥するとかゆみを伴い掻いてしまったり、皮膚のバリア機能が下がってしまったりして、お子さまの薄い皮膚は傷つきやすくなります。そのため、皮膚トラブルを起こさないように、季節を問わず毎日スキンケアをしていきましょう。



Point3 つめを切りましょう！

つめが伸びていると肌を掻いたときに引っ掻いて傷になることがあります。1週間に1回はつめをチェックして整えましょう。



Point4 衣服選び

肌に直接触れる下着や衣類は、刺激の少ない素材のものを選びましょう。

Point5 加湿！

室内の湿度を60%程度に保ちましょう。



保湿剤、使い分けましょう！

